

新年を迎えて

卒後臨床研修委員会 委員長 安部 睦美

あけましておめでとうございます。

どんなお正月を迎えていますか？おそらく去年の元旦とは全く違った年の初めではないですか？初期研修 1 年目の先生方、昨年は国家試験の勉強で大変だったのでは・・・そして今年は医師として 1 年目の新年、病院で年越しをした人、元旦から救急外来で患者さんと向き合っている人、そして病棟で患者さんと一緒に新年を迎えている人、それぞれが新たな気持ちで新しい年を迎えてくれていることと思います。また研修 2 年目の先生方、昨年は右往左往していた救急外来も卒なく熟せるようになり、ちょっぴり自信のついたお正月ではないですか？そして自分の目指す科への期待も大きくなっていることと思います。

松江市立病院は臨床研修病院としての研修理念—プライマリケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師としての必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する—に基づき「人を診る」ことのできる医師になることを願っています。

新しい一年、自分なりの目標を持ち、その目標に向かって日々研鑽することができるように、我々指導医をはじめ、職員一同で支えていきたいと思っています。今年も頑張っていきましょう。

臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修 理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師としての必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

- ① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を修得する。
- ② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える。
- ③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

歯科医師臨床研修 理念

患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力を身につけ、臨床研修を生涯教育の第一歩とします。

基本方針

- ① 全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践できるよう、歯科医師として必要な基本的診療能力を身につける。
- ② 患者さんの立場に立った人間味のある医療を目指す。
- ③ メディカルスタッフや地域の担当者等幅広い職種の人達とコミュニケーションを十分にとり、チーム医療を推進する。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 歯科医師としての良識と品格を備えるよう努力する。



発表してきました！

2 年次研修医 落合 諒也

12 月 9 日（土）・10 日（日）に、岡山大学で開催された第 129 回日本医学放射線学会中四国地方会に参加し、「水痘带状疱疹ウイルスによる多発下位脳神経炎の 1 例」の症例報告を発表しました。

初めての学会発表だったのですが、そもそも学会に参加すること自体初めてだったため余計に強く緊張した発表になってしまいました。それでも、つつがなく発表でき、他施設の貴重な症例の報告など勉強と刺激になるものを多く得られた 2 日間となりました。

同タイトルで論文も執筆中であり、こちらも初採択を目指し取り組んでいく所存です。

発表に関してご指導頂いた鳥取大学放射線科の先生方に感謝申し上げます。



1 年次研修医 石黒 諒

9 月 9 日（土）に高知城ホールで行われた第 92 回中国四国外科学会総会にて発表させていただきました。

高知と言えば鯉のたたきが有名ですが、個人的には「うつぼ」の唐揚げもお勧めしたいと思います。

さて、肝心の発表ですが「自分の伝えたい内容をいかにまとめプレゼンするか」ということの難しさを学ぶ良い機会となりました。また自身の発表のみならず、同世代の先生方の発表を拝聴することは非常に刺激的な経験でした。悔しくも奨励賞は逃してしまいましたが、来年以降の目標としてまた機会があれば挑戦させていただきたいと思っています。

最後になりましたが指導医の大谷先生をはじめ、スライドの作成に携わっていただいた消化器外科の先生方、誠にありがとうございました。



病院長との意見交換会

12 月 11 日（月）に研修医と病院長との意見交換会を開催しました。普段から交流はありますが、時間を確保して当院での研修や生活について、また当院への要望や希望などを直接病院長へ話すことが出来る良い時間となっています。今までこの会に於いて研修医から出された要望によりいろいろな改善がなされてきました。今回出た要望に対しても迅速に対応して頂き研修医のモチベーション向上につながっています。



僕も参加したかったなあ…。

地域研修合同説明会

10 月 13 日（金）の夕方、松江赤十字病院を会場に地域研修合同説明会を開催しました。2 年次研修医の必須研修となっている地域研修先の施設を選ぶ参考にしてもらおうと、数年前より当院と松江赤十字病院とが合同で開催しています。今年は松江赤十字病院が当番となり、6 施設から研修内容の説明に担当の医師・事務職員の方が参加され地域や自施設の特徴、研修内容や特産品、休日の楽しみ等まで分かりやすく説明されました。研修医の皆さんには実のある研修をしてきて頂きたいと思っています。

（表紙写真）

地域医療の現場から

知床らうす国民健康保険診療所

2 年次研修医 木下 亮

8 月の 1 ヶ月間北海道の知床らうす国民健康保険診療所で地域医療研修をさせていただきました。

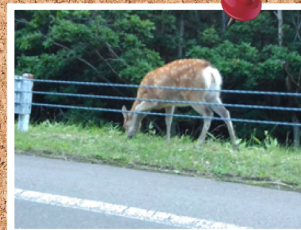
業務内容は当院と大きくは変わりませんが、常勤医の先生が一人であり、任される範囲は広く（特に病棟業務）、責任を感じながらも楽しく研修できました。また当直ではマンパワーが少なく、当院の研修は恵まれていると切に感じました。

所長をはじめとする診療所のスタッフは皆さん優しく、日常業務以外でも居酒屋へ連れて行っていただいたり、休日に名所案内をしていただきました。スタッフの優しさや北海道の大自然を感じられるのも、らうすでの研修の魅力でした。

来年以降も、らうすでの研修を希望する後輩が続いて、この魅力を満喫してもらえればと思います。



↑高台から見た羅臼町。



← あっ！
鹿だ！



↑羅臼での食事。



↑スタッフステーションにて。
スタッフの人たちは皆優しかった！

社会医療法人仁寿会 加藤病院

2 年次研修医 足立 雄基

11 月に加藤病院で地域医療研修をさせていただきました。外来や病棟業務だけでなく、訪問診療や産業医活動、学校健診などに同行し、貴重な体験ができました。山間部で独居する高齢者の生活、内服管理、老老介護などの現状を目の当たりにし、地域住民の生活を維持するためには地域のニーズにあわせた医療・福祉サービスがいかに重要かを感じました。近年、長時間労働などが問題となっていますが、産業医活動も興味深いものでした。

病院関係者の方々だけでなく、川本町の皆様にも親切にいただき感謝しております。綺麗な紅葉、長閑な環境で有意義な研修ができました。ありがとうございました。



←嚥下内視鏡の見学。

JR 川本駅。もうすぐ廃線になります。↓



↑紅葉の江の川。この風景に癒されました。

リハビリカンファレンス→の様子。



指導医からヒトコト

救急診療科 芦田 泰之



ジェネラリスト育成を目的とした現行の研修制度は、各分野の基礎を身につけるのが目的のはずです。どこの病院でも研修医は救急外来の担い手ですが、これは人手がないからではなく、救急外来こそが修練の成果を発揮することができる場所だからでしょう。

皆さんは初期研修で初診外来を経験することは少ないと思います。しかし、救急外来で接するほとんどの患者さんは初見で、しかも救急車でにぎにぎしくやって来る。受診歴があればカルテから情報を拾い集め短時間で背景を整理しなければなりませんし、なければ、本人や家族から引き出さなくてはなりません。何より患者さんのバイタルサインに異常があれば、あわただしいことこの上ありません。しかし、よくある疾患、よくあるシチュエーションがほとんどです。2年も経てば大半の疾患は経験することができ、その患者さんをどうしたら良いのかがわかるようになるでしょう。慣れるというのか、度胸がつくというのか、経験していることは強みであり、その後の医師人生の大きな礎となるでしょう。さあこの2年間、生かすも殺すもあなた次第です。

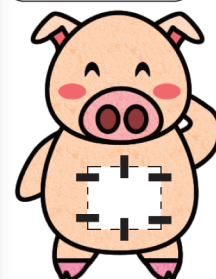
研修風景

＜縫合コンテスト練習＞

今年初めて鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター主催で縫合コンテストが開催されます。当院からも選抜選手が出場します。練習風景ですが、1年次研修医は4月に実施した縫合レクチャーの時よりもずいぶんと上達しています。



優勝目指して
がんばって!!



消化器外科での研修（中央研修医）



麻酔科での研修（左側研修医）



松江市立病院
Matsue City Hospital

〒690-8509
島根県松江市乃白町 32 番地 1
TEL(0852)60-8000(代)
FAX(0852)60-8005

発行者 / 松江市立病院病院長 紀川純三 編集・作成 / 医師支援室